

10月1日より連携室に配属になりました大沢知佳と申します。地域医療連携室の役割の大きさに重責を感じています。院内外の皆様との輪・和を大切に、住民の方々が安心して医療や介護を受けられるよう努めてまいります。

よろしくお願いいたします。

今回は先日行われました「がん地域医療連携セミナー」の内容とアンケート結果についてご報告いたします。

地域医療連携室 大沢 知佳

発行日 平成 22年 10月 第32号

がん地域医療連携パスセミナーの開催 !!

日時 平成22年10月7日 18時30分～19時30分

場所 平鹿総合病院 講堂

主催 平鹿総合病院

開催目的

がん地域医療連携パスの概念と運用方法について理解を深める。

テーマ「秋田県統一5大がん地域連携クリティカルパス運営の進捗状況」

講師 秋田大学医学部付属病院 丸山 起誉幸 先生

参加者 85名

参加職種 医師、薬剤師、看護師、訪問看護師、ケアマネージャー、平鹿地域振興局職員、湯沢地域包括支援センター職員



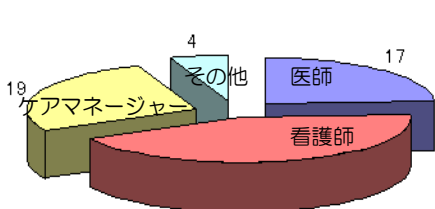
内容

2012年4月1日のがん診療連携拠点病院の更新をひかえ、連携パスの整備が急務である。秋田県統一5大がん地域連携パスと私のカルテが8月にほぼ完成し、2011年1月の稼働を目指している。連携パスは診断治療から看取りまで全ての期間に対応でき、拠-病-診-看-在-薬の連携を包括するようまた、連携の意志がある地域の全医療機関が使えるよう作成されている。今後は各拠点病院・医師会に対する連携パスの事業参加調査と参加リストの作成、地域住民へ明示するための啓発活動を行っていく。現場からの声をしっかり届け、連携パスが質の向上と安心・安全を確保した医療の推進に繋がることを目標に活動を続けていきたい。

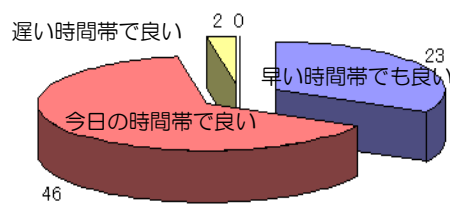
セミナーに関するアンケート結果

回答率84%

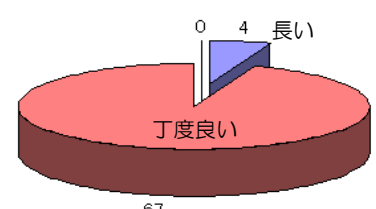
N=71



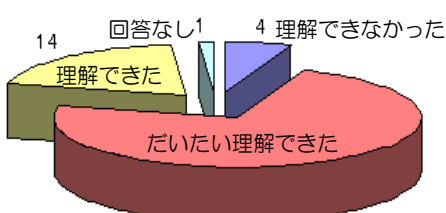
参加者の属性



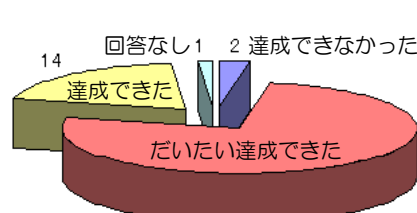
開催の時間帯



所要時間



内容の理解



参加目的の達成状況

セミナーに対するご意見・ご感想

- ・医療機関だけでなく、地域全体のつながりができる。
- ・地域の先生方が積極的に連携を図ってくれると支援する者も安心できる。
- ・「おくすり手帳」や「私のカルテ」の関連どうなるのか。
- ・何よりも、緩和ケア等との一本化が必要かと思う。